

チェルツアーの報告

2000年4月5日

今中哲二

☆ はじめに

3月25日(土)から4月2日(日)にかけて「チェルノブイリ見学とキエフ・モスクワ観光国際交流ツアー」と銘打って、9人のメンバーで Chernobyl/Kyiv/Moscow に行って来ました。ツアーのきっかけは、熊取での暮れの忘年会のたびに萩野さんから「機会があったら、カバン持ちでいいからチェルノブイリに連れて行け」と言われ、「そのうちいい機会があれば」と何年か続けて答えていたことでした。

実際問題としては、私の方に仕事がある場合に萩野さんについてこれては邪魔になるだけなので、いっそチェルノブイリを見に行く「観光ツアー」を組んで、これまでに、「行ってみたい」と聞いていたり、チェルノブイリなどでいろいろお世話になった方々に声をかけた次第です。

参加者は以下の9人でした。

今中哲二	京都大学原子炉実験所
萩野晃也	京都大学工学部
鶴田八千世	京都大学原子炉実験所
尾崎充彦	大阪大学工学部
颯田尚哉	岩手大学農学部
小村浩夫	静岡大学工学部
渡辺美紀子	原子力資料情報室
高橋昇	技術と人間
大島秀利	毎日新聞大阪

以前のトヨタ財団共同研究のメンバーで、ウクライナビザの invitation をとってくれたり、チェルノブイリへの Excursion のアレンジを頼んでいたキエフの Tykhy さんが、我々の訪問中に急遽カザフスタンへ出かけることになり、チェルノブイリゾーンへの同行者を探すのに出発前に若干バタバタしました。とにもかくにも、チェルノブイリの石棺を見て、全員病気や怪我もなく戻ってくることができ、coordinator としてはほっとしております。また、女性2名に参加頂いたことで「停年前オジンツアー」が一挙に華やいだものになり、個人的にもツアーを enjoy できました。

何かの参考に、旅程の概要についてまとめておきます。

☆ 旅程

3月25日(土) 成田出発 日本の天気はま ずまず モスクワもさし て寒からず	➤ 11時成田第2ターミナル集合(13:00発SU582) ➤ 13:20 成田離陸 17:25 シェレメーチボ2着(時差6時間、飛行時間約10時間) ➤ 飛行機はほぼ満席。成田ーモスクワ間の積算ガンマ線量(アロカ・マイドーズミニ)は10μSv。ガンマ線量率(ベラルーシ製線量率計)は、飛行中前半0.75μSv/h、後半約2μSv/h。 ➤ プロホーロフさんとスラーバの出迎え。100ドルずつ集金し、空港で900ドル両替(1ドル=28ルーブル)。 ➤ 7時半頃マヤックホテル着。ホテルのレストランがえらく賑やか。ディスコにでも変わったのかと思ったら結婚式の披露宴で貸切。 ➤ ヤロシンスカヤ、平野さんに Tel. 平野さんによると翌日から夏時間とのこと。 ➤ 今中の部屋で有志がビールとミヤゲの日本酒を軽く飲んでこの日はおしまい。
3月26日(日) キエフへ移動 曇り	➤ ホテルの朝食はバイキング形式で、以前に比べ豪華。 ➤ 大統領選挙投票日のため、ホテル近くの公園のCD自由市場(土日のみ)は中止。 ➤ ホテルの支払い(朝食付きで1人45ドル)。メンバーに1500ルーブルずつ配分。 ➤ ヤロシンスカヤ、DubnaのIgnatovich一家、平野進一郎さん(「ロシアの声」放送勤務)がホテルに。今中、鶴田、渡辺、大島が対応。他のメンバーはホテル前の公園と地下鉄駅前自由市場の散策。 ➤ 昼食は、ビール(ホテルの生ビールBaltikaは1杯58Rでまずまず)と市場買出食料(ピロシキ、トマトなど)ですます。

	➤ 午後1時過ぎシェレメーチボ1空港へ出発（15:45 発 SU187）、プロホーロフとジーマに日本酒とチョコレート。 ➤ 16:15 キエフ・ボリスポル空港着。ホテルまでマイクロバスを 70 ドルでチャーター。（Tykhy から連絡を受けていた相場より）高い気がしたが面倒なので値切らず。 ➤ 6時頃 Bratislava ホテルにチェックイン。今中の部屋は meeting 用に2部屋ルームを頼む。Nasvit に Tel、8時頃にホテルで打合わせのアポイント。 ➤ ホテルのレストランで夕食（前菜盛り合わせ、サラダ（Stalichinaya）、キエフ風カツレツ、ビール、ウォッカ）、9人で93ドル。 ➤ 200ドルずつ集金、ホテルの Bank で2000ドル両替（1ドル=5.38フリブナ）、宿代の支払い（1泊朝食付き58ドル）。 ➤ 今中の部屋で、Nasvit 夫妻（トヨタ共同研究のメンバー）、チェルノブイリに同行してくれる Viktor と打合わせ。それぞれに日本酒とサキイカを渡す。
3月27日（月） チェルノブイリへ 出発 午前中曇り・霧 午後晴れ	➤ 朝食はホテルのレストラン、ここもバイキング形式で前より豪華（CIS 宿泊者は別メニュー）。 ➤ チェルノブイリに持って行かない荷物を一時預かりに預け、チャーターしたマイクロバス（Tykhy が予約してくれていたもの）で8:45に出発。 ➤ 鶴田、渡辺、高橋、大島が個人線量計を装着。10:30分頃、Djatki 村の30kmゾーンゲートに到着（10年前に瀬尾さんと来たゲートだった）。ゾーン側の担当者と11時に会う手筈だったが、ゲートですでに待っていたのに驚いた。案内役のリーマさんは気さくそうでホッとする。 ➤ 約20分でチェルノブイリ市（原発から15km）の宿へ到着。宿は、30kmゾーンの対外折衝窓口である Chernobylinterform や国際研究組織 CHESIR の事務所と兼用で、もともと1986年秋にチェルノブイリ事故処理ソ連国家委員会用に建てられたもの。そのノーメンクラトゥーラの宿舎6室をホテルにしたもの。間取りは豪華。 ➤ 11時頃より、CHESIR の研究部門責任者である Arkhipov と面会。（彼の presentation で、核燃 particle のゾーン内分布が南に偏っているの理由を聞いたら、事故当初の風は北から南だったとのこと？）まずまず友好的な雰囲気なので、木の年輪サンプルの採取について頼んだら、協力してくれるとのこと。 ➤ 昼食は宿の食堂で、前菜、ボルシチ、牛肉ロール巻、ペレメニ（ロシア餃子）。多すぎて残す。酒は出なかった。 ➤ 2時に原発で担当者待っているというので、食後の休憩は10分ほどで出発。約30分で原発へ到着。 ➤ 管理棟らしきビルで、原発の模型を前に発電所の説明を受ける。3号炉が止まると3000人の失業者が出るとのこと。今中は、Slavtich 市のTV局のインタビューを受ける。 ➤ 管理棟を出て石棺近くへ。直近は工事中的ようで200mぐらいまでしか接近できず。私の線量率計は約8 μSv/h、荻野さんのGMは25 μSv/h を記録。記念写真をとって早々に退散。 ➤ プリピャチ市へ移動。観覧車のある公園近辺で1～2 μSv/h（飛行機での高空飛行なみ）。公園並木の白樺から荻野氏の年輪サンプルを採取。 ➤ 鉄道の高架橋途中で写真撮影。 ➤ 6時頃ホテルへ戻る。Excursion 費用の支払い（宿舎、ゾーン内バス、ガイドなどすべてを含め1087ドル）。 ➤ 市内の食品店でビール、ウォッカ、ブランデーを調達して晩飯。メインはカツレツ（ハンバーグ）＋ライス。 ➤ みなさんの線量計は3 μSv 程度。若干の被曝であるが、かねて言っているように成田－モスクワ飛行（10 μSv）より小さい。 ➤ 晩飯後、チェルノブイリの夜の町へ、街灯のない暗い道をバス停2階のカフェへ。結構なにぎわい。
3月28日（火）	➤ 朝食前に宿舎周辺を散歩。通勤の人々がかなりいて驚く（定住しているのではな

汚染地 晴れ	く交替勤務とのこと、チェルノブイリ市に約 3000 人)。 ➤ 9 時頃、科学アカデミー「シェルター」所長の Klyutchnikov のオフィスへ。石棺の専門家で Tykhy の知り合いとのこと。何となく官僚的雰囲気、こちらが 1 聞くと 10 くらいだらだらとしゃべるタイプ。事故原因の話を聞くと、これに何でも書いてあるとあって「UNIT'SHELTER」という本をくれた。 ➤ 汚染されたヘリや戦車の置き場がある PASSOKHA へ。巨大なヘリコプターが数十機、戦車や装甲車が延々と放棄されている光景に圧倒される。大島さんは高さ 30m ほどのタワーに登って写真撮影。荻野さんは置き場の守衛に手伝ってもらってモミの木の年輪採取。 ➤ 12 時頃宿舎へ戻って昼食（前菜、スープ、鶏足、ブリニィ（クレープ）、ペレメニ、ビール）。到底食べきれず、ツアー出発前には「メシにありつけない」おそれがあるといったものが一転「メシを食べきれない」心配となった。 ➤ 参加メンバー 9 人のうち、毎日新聞を購読しているものがなんと 7 人であった。毎日記者の大島さんを除くと 8 人中 6 人であり、とにもかくにも偏ったグループであることが確認された。 ➤ 13 時半頃出発、途中廃村（Korogod）で下車。自発的帰村者のいる Ilintsi 村を通過、ゾーンの西側のチェックゲートである Dibrova へ。14:40 頃到着。 ➤ 原発西方約 80km のナロージチ村へ。途中汚染地の検問を抜け 4 時頃到着。チェルノブイリ博物館の鍵を持っている役場の担当者がつかまらず、結局博物館へは入れず。助役のワレリーさんの案内で公園のモニュメントへ。ナロージチ郡の人口は事故前の 3 万人が 1.3 万人に減少、ナロージチ市は 6000 人が 3000 人に。郡の人口の 60% が年金生活者。 ➤ 事故の翌日にナロージチで 3 R/h の線量率があったという記録は確かに博物館にあるとのことなので、ワレリーさんにコピーを Fax で送ってもらうことにしてナロージチを退散。 ➤ 7 時半頃 Bratislava ホテルへ戻る（ゾーンまでの往復マイクロバス代は 144 ドル）。全員一昨日と同じ部屋にチェックイン。 ➤ Excursion 1 日目と 2 日目を合わせたガンマ線量は平均で 4 μSv。バックグラウンド分を 1 μSv とすると、excursion にともなう被曝は約 3 μSv となる。 ➤ Victor にガイド料として 200 ドル渡す（契約では 1 日 50 ドルで 2 日分 100 ドルだが、通訳分 50 ドル、感謝分 50 ドルと言って上乘せ）。翌日は奥さんの誕生日とかで、これでプレゼントが買えると喜んでた。ただし、Extra service として 30 日に空港までつきあえと要請。Nasvit に Tel し、翌日のオペラ劇場切符と彼の上司タバチニィとのインタビューの手配を確認。 ➤ 夕食はホテルのレストラン（高橋、渡辺はパス）、前菜、野菜、メインはチョウザメのフライにビール、ワイン（115 ドル）。 ➤ 200 ドルずつ集金し、1200 ドル両替しホテルの支払い。
3月29日（水） キエフ観光 曇り	➤ Tykhy の家に電話して奥さんから、彼のスケジュールと現在の事務所の場所について聞く。 ➤ 朝食時、全員元気そう。これからは観光モード。 ➤ 9 時過ぎにホテルを出発。地下鉄駅前の両替で 500 ドル交換。地下鉄で「テアトラリニ」駅へ、「黄金の門」駅のホームに移動して地上へ。黄金の門博物館は冬季閉鎖中のようす。 ➤ オペラ劇場前を通り、キエフ大学正門とシェフチェンコ像をみたあとテントのカフェでコーヒー／ビール。 ➤ セントソフィア寺院。他のメンバーが拝観中、今中は Nasvit に Tel するため独立広場の中央郵便局へ。テレフォンカードを買って Nasvit と連絡（再度 2 時過ぎに Tel しろとのこと）。Tykhy 事務所に寄って、秘書のイリーナに、絵本出版カンパの 100 ドルと、ホームページ原稿料 2 年分の 480 ドルを渡す。 ➤ セントソフィアへ戻りみんなに合流したのが 1 時過ぎ。アンドレーフスキー通りのミヤゲ物街へ。坂の途中のカフェで昼食（ビール、ペレメニ、22 ドル）。Nasvit に Tel し 4:45 に黄金の門近辺で会う約束。

	➤ 坂を下り、ドニエプル河岸へ。時間があればキエフのチェルノブイリ博物館と想っていたがパス。 ➤ 4時すぎ、「Poshtova 広場」駅から地下鉄にのり、今中と大島は「黄金の門」へ、他のメンバーはいったんホテルに戻って、6:45 にオペラ劇場前に集合。 ➤ 今中と大島は Nasvit と落ち合って、非常事態・チェルノブイリ省へ。黄金の門から歩いて5分程度だが、道はややこしい。建物は、元女学校だったとかでなかなかりっぱなもの。対外広報局長さんらしき人の office で、大島さんがタバーチニのインタビュー。 ➤ 6時 45 分、オペラ劇場前でみんなと集合。オペラ「フィガロの結婚」、歌はウクライナ語。筋立てはわからないが朗々たる声に感心（入場料1人 4.6 ドル）。 ➤ オペラ終了後、劇場横のカフェでビール、ポテトチップ、ソーセージ（45 ドル）。
3月30日（木） キエフ見物・モスクワへ移動 曇り	➤ 朝、チェックアウトして、荷物を一時預かりへ。タクシー3台でペチェールスカヤ・ラーブリへ。ガイドはヘレンさん。修道院中央門は工事で閉鎖中、中央広場入れず大塔に上れず。南側入口より入り、地下教会へ。次に北側入口へまわって三位一体教会へ。ギャラリーでミヤゲ物購入。結構歩く。 ➤ タクシー2台で、独立広場（旧革命広場）へ。フレシチャトク通りを歩いてベッサラプスカヤ自由市場へ。キャビアの買い出し（塩漬け小瓶で12 グリブナ、大瓶で30G、生の瓶でその10倍の値段）。 ➤ 「フレシチャトク」駅から地下鉄でホテルのある「ダールニツァ」駅へ。ホテル前のカフェでビール、チップスを注文し、自由市場で買ってきた乾燥牛肉と乾しニンジン。 ➤ 3時に予約のマイクロバスでホテル出発、Victor の車も同行。30分ほどで空港へ。残りのグリブナをドルへ両替、持ち出しが1000ドル以内の場合は申告不要とのこと。 ➤ 通関、荷物検査、出国をすませ免税店で生ビール。 ➤ 20時過ぎモスクワ到着。プロホーロフ、ジーマの車でマヤックホテルへ、10時半頃チェックイン。今中はジーマらと日程、翌日のパーティの打合わせ。パーティの予算は1000ドルといって、中身はジーマとプロホーロフにまかせる。 ➤ ホテルのレストランでサラダ、チーズ、ビール。
3月31日（金） モスクワ観光 晴れ	➤ 朝食中8時頃、サンクトペテルブルグのシェルバコフがホテルに来る。夜行でモスクワにやって来て、日中は所用、夜はオプニンスクへ移動とのことでパーティには出られない。 ➤ 小村さんに、みなさんから共通経費250ドルずつを集めてくれるよう依頼。 ➤ 9時頃ホテルを出発してモスクワ見物に。地下鉄の乗り方が、コイン方式からカード方式に変更されていてびっくり。シェルバコフが同行していたので、2回カードを9枚買うときの言い方“Ääâÿòü êàðð÷âê ïî ääóí!”を覚えてもらう。地下鉄1回4ルーブル。 ➤ 地下鉄の終点「アレクサンドロフスキーサート」でシェルバコフと別れ、まずはロシア正教の総本山「キリスト救世主教会」へ、ながく工事中だったがほぼ完成。 ➤ 次に、クレムリンの壁の脇を歩いて赤の広場へ。レーニン廟は残念ながら休館日。マネージ広場のレストランでビール（50ドル）。300ドル両替。地下街見物。 ➤ クレムリンの中へ、教会2つと展示館を見物。クレムリンを出たところにはみんなくたびれ気味。 ➤ もうひと踏ん張り歩いて、アルバート街へ。カフェで昼食。ビール、パンケーキ、サラダ（143ドル）。当初の予定ではその後トレチャコフ美術館へ行く予定であったが、トレチャコフはパスにする。 ➤ カフェを出たのが4時過ぎで、4時40分までアルバート街で自由行動。 ➤ 5時20分ころマヤックホテルに戻る。ホテル横の両替で小村さんの財布をあずかり、集めてもらった2000ドルのうち1200ドルを両替し、あとの800ドルを私の封筒に移した（つもりだった。後に両替記録を見ると850ドルになっているので、共通経費350ドルが小村さんの財布に残ったようだ）。1200ドルの両替で翌日のチェックアウト、アララトなどのおみやげ代が出るはずだったが、両替の中身を

	確認せずに部屋に戻り、札束・両替記録を輪ゴムで止めて洋服タンスの上段に。 ➤ パーティの準備（18 席）が出来ているのを確認し、部屋に戻って席順のくじ作り。ドタバタとしながら 5 時 45 分頃レストランへ。ジーマの立ち会でレストランのマネージャーへ 900 ドル渡す。 ➤ 料理はなかなかりっぱなもの。シャンペンで乾杯して宴会を始める。招待客は、Yaroshinskaya 夫妻、Burlakova、Shevchenko、Ignatovich、平野さん、ジーマ、プロホーロフで、Ryabtsev は現われず。メインは魚、鳥、牛肉の串焼き。ヒシャク入りキノコグラタンもあった。 ➤ 参加者全員にスピーチをやってもらいながら乾杯が続き、まずまずの雰囲気ではなかったかと思う。Ignatovich は、(ロシア側も含め) 反原発グループの集まりと知ってか、何やら挑発調のスピーチ。席が離れていたこともあって、Burlakova の反応をつかめないまま、9 時前に彼女が最初に退去。Shevchenko、ヤロシンスカヤ夫妻も帰る (パーティの追加料金は 51 ドル)。 ➤ 2 次会は 3 階の会議室を無料で拝借。残りの料理や酒でわいわいやっている、11 時頃うるさいと苦情が入り、12 時頃お開きに。小村さんなど何人かは、翌日午前中にプロホーロフさんの車でトレチャコフに行くことにする。 ➤ 今中の部屋に Ignatovich がついてきてしばし談笑。案外あっさりと引き上げたので 1 時頃就寝。
4 月 1 日 (土) ツアー最終日 雨	➤ 朝食後、ホテルの支払い。支払いの残りで、トレチャコフの入場料やミヤゲの代金が出るはずだったがほとんど残らず (変だなどは思ったが深く追求せず)。 ➤ 大島さんは、9:45 より平野さんの通訳でヤロシンスカヤのインタビュー。 ➤ 高橋さんは、10 時からジーマの通訳で、モスクワの出版関係者から日本の出版事情についてのインタビュー。 ➤ 今中と渡辺は、ホテル近くの公園 CD 市の見物。 ➤ 残りのメンバーは、Ignatovich を含め、9:30 にトレチャコフに出発。 ➤ 1 時頃に全員集合、荷物を積んで、モスクワ大学・雀が丘へ。Ignatovich の尽力でモスクワ大学ビルの中へ入れる。 ➤ キエフ駅の近くのファミリーレストラン、ヨールキ・パルキで昼食、サラダバイキングと壺入りキノコスープ、ビール (111 ドル)。 ➤ 次にアルメニアブランデーをミヤゲに買い、チェルノブイリ犠牲者の墓があるミチンスコエ墓地をまわって、5 時までにシェレメーチボ空港へ、という算段であったが、昼食が終わると 3 時頃か。 ➤ クネーツェボ駅近くとショップでアルメニアブランデーを購入。ルーブルもあらかた使い果たす。すでに 4 時近くなのでミチンスコエはパス。空港へ向かう。 ➤ 16:45 頃シェレメーチボ 2 到着。ロシアでは 1500 ドル以上持っていなければ申告不要とのこと。通関、出国も順調。免税ショップで再びビール。飛行機は午後 7 時に離陸。
4 月 2 日 (日)	➤ 予定より 1 時間早い午前 9 時 40 分に成田着。飛行時間 9 時間 40 分でモスクワ→成田のガンマ線量は 8 μ Sv。 ➤ 入国、通関の後、無事の生還を祝しビールで乾杯。会計は今中の持ち出し気味のようだったでみなさんから 30 ドルずつ徴収。また写真代として、鶴田さんにみんなから 1000 円ずつ供出。 ➤ 三々五々帰宅の途に。

◇ 旅行費用 (1 人当り)

- 旅行準備費用 2 万円
(ロシアビザ: 1000 円、ウクライナビザ: 9500 円、その他共通経費)
 - 航空券 8.7 万円
(成田・モスクワ・キエフ往復、空港使用税)
 - 現地集金共通経費 (780 ドル) 8.6 万円
- 合計 19.3 万円 (ただし、ミヤゲ代などの個人出費は含まず)
以上